

令和6年度第1回地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会議事録

令和6年7月25日（木） 19時00分～19時50分

下関市立市民病院2階 講堂

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会

： 飴山委員長、伊藤委員、小山委員、河本委員

地方独立行政法人下関市立市民病院

： 上野副理事長、吉川参与、法人事務局

下関市保健部（下関保健所）

： 渡邊保健所長、藤井部次長

藤永部次長ほか2名

1. 開 会

2. 議 題

(1) 令和5年度に係る業務実績に関する評価結果（案）について

事務局 概要説明

=質疑応答・意見等=

法 人	<p><u>第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項</u></p> <p><u>2 患者サービスの向上 (1) 患者中心のチーム医療の充実</u></p> <p>業務実績に関する評価結果 [小項目] の資料 18 ページ、項目 24 番において、標準的かつ効率的な医療を推進し患者の負担軽減を図るため、クリティカルパスの積極的な活用に取り組むとしている。</p> <p>この自己評価「4」に対して、市の評価が「2」となっている。</p> <p>その理由が、適用件数が計画及び令和4年度実績を下回っているということだが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の患者の入院が非常に多く、686件あった。これが令和5年度には293件に減っている。つまり、新型コロナウイルス感染症の患者でクリティカルパスを適用する数が、令和5年に大きく減ったことになる。</p> <p>また、パスの適用件数全体から見ると、令和4年の3188件から、</p>
-----	---

令和5年は2959件に減っているが、新型コロナウイルス感染症の患者を除くと、令和4年が2500件に対して、令和5年は2566件とむしろ増えている。

このことから、パスの適用件数の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた結果であり、病院としては、どうすることもできないことである。職員への意識啓発としては、毎月委員会を開いて、常に改善に取り組んでいる状況なので、「2」（支障や問題がある）という評価は、法人としては受け入れ難いというのが正直なところである。

事務局

現在の市の評価は、令和4年度に対して適用件数が減ったということよりも、令和5年度の計画値を大幅に下回ったということが主な理由である。

ただ、本日の委員会のご意見を踏まえて評価の見直しを行うことは、当然にあり得ることである。

評価委員

医療従事者の立場からの感覚で申し上げますと、やはり新型コロナという特殊な事情がある。非常に困難な状況の中で、病院を運営していかなければならない。

そうすると、純粹に評価「2」という判断は、私自身、評価の仕方にも問題があるのではないかと考えている。

ましてや、この評価が市民にオープンになるのであれば、「2」という評価を市が付けているというのは、市民病院にとっては非常に誤解されることになる。新型コロナの影響という特殊な事情を考慮し、表現や評価自体を変えることをご検討いただきたい。

事務局

委員会の意見ということで、内容は委員長と相談させていただき、評価は改める方向で整理をさせていただく。

＝令和5年度の評価に対する意見＝

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会の意見としては、大項目第2、中項目2の(1)、小項目24「標準的、効率的な医療の推進(クリニカルパスの活用)」については、クリニカルパス適用件数が減少し、計画値を下回っているが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した影響による外的要因があることを考慮し小項目の達成状況の評価することが必要であり、「年度計画を順調に実施している」と評価すべきと考えます。

(2)第3期中期目標期間の業務実績に関する評価結果(案)について

事務局 概要説明

＝質疑応答・意見等＝

評価委員 | 先ほどのクリニカルパスの活用の項目の見直しにより、5ページの「市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の中期目標の評価がBからAに上がる。それにより、全体評価も見直しを行うことになる。

＝第3期中期目標の評価に対する意見＝

地方独立行政法人下関市立市民病院評価委員会の意見としては、令和5年度の業務実績に関する評価の意見を踏まえ、関連する大項目評価及び全体評価を行ってください。

3. 閉 会